

香川県内の黒毛和種雌牛頭数及び出生子牛頭数並びに分娩間隔等における年次及び地域ごとの比較

○谷原礼諭¹・高橋和裕² (1 香川県農政水産部農業経営課、² 香川県西部家畜保健衛生所)

【目的】全国的に黒毛和種子牛の供給頭数が不足している中、増頭のための生産基盤の強化が必要である。農家への飼養管理等の技術指導によって、増頭のための生産基盤の強化を図るため、繁殖状況等の客観的データが必要である。このため独立行政法人家畜改良センター牛個体識別全国データベースを活用し、年次ごとの黒毛和種の頭数、出生子牛頭数、分娩間隔などのデータを把握し、増頭のための生産基盤強化を実現させることを目的とした。【方法】独立行政法人家畜改良センター牛個体識別全国データベースにおける、2015年及び2016年の香川県内で飼育されている黒毛和種雌牛に関するデータから、頭数、産次数、子牛生産率（その年次内における子牛生産頭数÷その年の経産牛頭数）、平均産次（母牛産次の合計÷経産牛の数）の農業改良普及センター管内ごとの繁殖状況を検討した。【結果】2015年及び2016年の経産牛の頭数は、それぞれ、1471頭、1373頭と減少した。平均分娩間隔は、それぞれ427.1日、432.2日と長期化傾向にあった。平均分娩間隔についての各地域の傾向は、短い順に、2015年は西讃、東讃、小豆、中讃の順であり、2016年は西讃、小豆、東讃、中讃の順であった。子牛生産率については、多い順に、2015年は小豆、西讃、東讃、中讃。2016年は、西讃、小豆、東讃、中讃であった。このように、西讃及び小豆地域において繁殖性が高い傾向が見られたが、家畜改良増殖目標に掲げられている分娩間隔の全国平均405日及び平成37年度目標380日に到達していなかった。このため、今後は県内全域の繁殖性の高位平準化を図る必要があると考えられた。

平成29年度第67回関西畜産学会大阪大会